

未来^眼やまがた

第21回

音楽で山形を元気に

山形交響楽団（以下、山響）は、38年前東北ではじめての地方オーケストラとして誕生し、これまでスクールコンサートなど、山形に音楽文化を根付かせるために尽力してきた。近年山響が「地方オーケストラのお手本」として注目されているのは、2004年に就任した指揮者・飯森範親氏の山響改革によるところが大きい。指揮者を目指したきっかけ、山響での取り組み、音楽が持つ力、そして地域の活性化について飯森氏にうかがった。

「ボレロ」を指揮したい

- 町田 飯森さんが指揮者になりたいと思ったのはどのようなきっかけでしたか。
- 飯森 生まれてはじめての演奏会は0歳の

時、日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会だったと聞いています。3歳の時、祖父がSPレコードで流したチャイコフスキーの「ピアノ協奏曲」を聞き、ピアノを習い始めました。そして4、5歳の頃「オーケストラの少女」という、指揮者ストコフスキーが登場した映画を観た記憶があります。

指揮者になりたいと思ったのは10歳の時、父が聞いていたラヴェルの「ボレロ」がきっかけです。その時のことは今でも忘れません。「ボレロ」は、スネアドラムのリズムに、AとBの2つのメロディーが繰り返される曲で、最初に聞いた時「なんだ、このお経のような曲は」と衝撃を受けました。単調な曲構成にもかかわらず、「これだけ聞く人を興奮させる力は一体何だろう。この曲を指揮したい」と思いました。この出会いがなければ、指揮者を目指すことはなかったでしょう。

●町田 1,000曲以上を暗譜していると伺いましたが、そのような暗譜力はどのようにして身につけたのですか。

●飯森 記憶力は、父に教わった「麻雀」が影響しています。小学校の時には麻雀牌を見ずに、頭で整理する方法を繰り返し訓練しました。

また、高校生の時には数学好きな父が特訓してくれ、数学が得意になりました。数学の問題を解く過程は音楽とも関係があります。音楽はハーモニー・リズム・メロディ、ダイナミックスを組み合わせて作られ、旋律の関連でフォルテ、ピアノといった強弱を表記しますが、作品にはフォルテと表記するはずなのに、譜面にはなぜかピアノと表記されてあるものがあります。作曲家がなぜそのような表記にしたのかを考えるアプローチは、数学の問題を解く過程と似ています。

●町田 ご家族から受けた影響を非常に強く感じますね。

●飯森 実は、音楽で身を立てることに父が大反対でした。その父を説得したのは母でした。母がいなかったら、音楽大学に進学することもなかったし、指揮者にはなっていなかったでしょう。私は10歳の時に抱いた「指揮者になりたい」という夢を持ち続け、高校生の時には「桐朋学園大学で小澤征爾先生に習う」とい



飯森 範親 (いもり・のりちか)

1963年、神奈川県生まれ。1986年、桐朋学園大学卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積む。04年より山形交響楽団の常任指揮者、07年より音楽監督に就任。現在、山形交響楽団音楽監督、東京交響楽団正指揮者、いづみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。

う目標を持ちました。

●**町田** 飯森さんにとって、理想とする指揮者とはどんな指揮者ですか。

●**飯森** 理想とする指揮者像は「オーケストラと一緒に成長できる指揮者」です。指揮者とオーケストラと一緒に成長することをやめてしまっただけで終わってしまいます。山響も同じ、指揮者と楽団員が、お互いに切磋琢磨し続けなくてはなりません。

よい意味での「あがすけ」に

●**町田** 飯森さんがはじめて山響を指揮され、10年近くになりますね。山響はどのような個性のオーケストラですか。

●**飯森** 山響は楽団員以外にエキストラ奏者がいますが、その方々は「山響は日本のオーケストラではないようだ」と言います。

●**町田** その理由はなぜでしょうか。

●**飯森** それは練習の時から、楽団員が活発に自分のアイデアや意見を出しているからで、このようなオーケストラは日本では珍しいようです。ヨーロッパのオーケストラはさまざまな国から楽団員が集まりますから、衝突することもしばしばあります。もちろん個性が強すぎてもオーケストラはうまくいきませんが、山響は「個性と協調性」のバランスに優れたオーケストラです。

近年、オーケストラの個性が評価されるようになり、楽団員もそれぞれの個性をアピールしてもいいと考えられるようになってきたことのあらわれかと思えます。そのうえで山響は県外出身の楽団員が多いことも少なからず影響しているかと思えます。

日本人は人と違うのを嫌う傾向がありますが、特に山形の方はそれが強いのではないのでしょうか。たとえば山形の若い経営者の中には、目立ったり、注目されるようになって「生意気だ」と言われなかつたかと思えます。

●**町田** 山形には、生意気だとか、目立ちたがり屋という意味で「あがすけ」という言葉があります。

●**飯森** はい、存じています。その理由も理解できますが、企業には「お客さま」がいます。まずお客さまに目が向かなくてはなりません。

指揮者と経営者の共通点

●**町田** オーケストラにおける「聴衆と楽団員と指揮者」は、企業における「お客さまと社員と経営者」の関係によく似ていますね。

オーケストラの聴衆はお客さま、楽団員は企業の社員のこと。その楽団員と社員がそれぞれの持ち味を出して、1つのハーモニーを奏するため指揮者、経営者がいるということになるのでしょうか。

●**飯森** 指揮者にはいろんなタイプがいます。カルロス・クライバーのように、自分の理想とする音楽を追求し、一期一会のオーケストラと最高の演奏をすることを目指す指揮者がいれば、ユージン・オーマンディのように、楽団員を育て、スポンサーを獲得し、さらにお客さまを集めるなど、長い時間をかけて一つのオーケストラを育てることを目指す指揮者など、さまざまなタイプがいます。

●**町田** そうですね、企業の経営者もバラエティに富んでいます。手づくりで人材を育てる経営者もいれば、多方面から即戦力となる人材を集めて効果を求める経営者もいます。

●**飯森** ただし、後者の方法は一時的な効果はあるでしょうが、人材が定着しない可能性があります。それでは困るので、いい人材を少しずつ育てていくことが必要だと思います。

私は一つの理念を持っています。それは100メートルを10秒以内で走る人はまれだが、17秒を14秒に縮める人はたくさんいるということ。つまり、人の潜在能力は、簡単にはわかりませんが、それぞれの潜在能力を見いだし、伸ばすのが指揮者であるという理念です。



町田 睿 (まちだ・さとる)

1938年、秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年株式会社荘内銀行取締役副頭取、1995年取締役頭取に就任、2008年より取締役会議長。2009年10月1日より、フィデア・ホールディングス取締役会議長・北都銀行取締役会長。

オーケストラには1番奏者や2番奏者がいます。指揮者は楽団員の資質を見抜き「この人は1番奏者としては難しいが、2番奏者ならその能力を生かせるかもしれない」と考えなくてはならない。指揮者はこのようなことを、一つずつ積み重ねていくことが大切だと思っています。

●町田 そのような考えは、企業における人事の考え方とよく似ていますね。

●飯森 最近、企業の方との付き合いが増えてきました。昨年の事業仕分けで、山響の事業予算が削減される危機に陥りましたが、なんとか今年は乗り切れることになりました。

その時いろんな経営者の方とお話し「危機はチャンスだ」という言葉を何度も聞きました。「収益が伸びないことを、景気や人のせいにはいけない、状況が悪くても成功している企業はいくらでもある」とアドバイスを頂きました。

●町田 優秀な経営者ほど、そのような考えの方が多いいように思います。

リーダーがポジティブであること

●飯森 以前、山響の「山形」という名前が良くないという話題がありました。しかし私は「むしろ山形でなければできないことを打ち出してはどうか」と提案し、改革に取り組んできました。

経営者がネガティブになれば、そこで終わりです。企業の業績が悪く、立て直しが必要な時、社員に対して「給料をカットする」と決めるのは簡単なことです。そのような方法ではなく、社長自ら「私は2,000万円稼ぐから、みんなも200万円ずつ稼ぐようがんばってくれ」と言った方が、モチベーションが向上すると思います。経営者が前向きでなくては、いまの危機は乗り切れないと思います。

●町田 飯森さんが始められた取り組みで、演奏会前に曲について、お客さまに簡単にお話する「プレ・トーク」はとてもいいですね。

私のようなアマチュアにとって、演奏前に作品の背景や作曲家のこと、聞きどころを少し手ほどきしてもらえると、さらに楽しく演奏を聞くことができます。

●飯森 日本のクラシック音楽の歴史はまだ100年程度で、根付かせるのは難しいですが、「プレ・トーク」を通じてお客さまにさまざまなクラシックの楽しみ方をお伝えし、関心を持って頂ければと思っています。いま、新たに「プレ・プレトーク」を携帯電話で始めようかとア

イデアを練っています。

●町田 携帯電話で飯森さんが演奏曲について案内してくれるという方法ですか、それは興味深いですね。

●飯森 会員登録してくださったお客さまに、携帯電話を使って「次回の演奏会の作品はこんな曲です」とのお知らせや、演奏後のお礼のメッセージ、空席状況などを配信できないだろうかと考えています。

●町田 飯森さんは、優れた音楽家であるだけでなく、素晴らしい経営者ですね。

●飯森 今はスピードが早く、いろんなことを考えていかなくはなりません。携帯電話は通信だけではなく、情報収集、買い物などに活用されています。生活必需品となった携帯電話を使って、演奏会の魅力、作曲家の魅力、作品の魅力を広く発信できればと考えています。

心を育てる、音楽の力

●町田 戦後間もない頃、映画は最大の娯楽でした。音楽映画や主題曲に多くのクラシック音楽が使われました。私の場合、シューベルトの青春をテーマにした映画「未完成交響楽」が忘れられません。シューベルトの家庭教師をつとめた貴族の女性がお嫁に行くラストシーンが印象的でした。映画がクラシック音楽への興味を高めてくれたと思います。

飯森さんは、演奏会以外にも「オーケストラの日」など、子どもたちに音楽の楽しさや面白さを伝えるために取り組んでおられますね。

●飯森 このような取り組みを通じて「日本にクラシックを広げたい」という気持ちもありますが、最近あまりにも悲観的な子が多すぎて何とかしたいとい



作曲家と演奏曲について解説



指揮者にチャレンジ！「オーケストラの日」

う思いが強くなります。

ロックでもクラシックでも、音楽が好きで、音楽をしたいと思う子どもには、心が豊かな子が多いと思います。子どもたちの情操教育や心の啓発のために音楽は画期的なものです。同じ芸術に「絵画」もありますが、形に残すことができる絵と比べて、音は形に残りません。心にしか残せないのが「音楽」です。

音楽を心にどれだけ残せるかは個人の感じ方によります。その感じ方は強く、深い方が良い。そしていろんな音楽を聴くことで、その感じ方の範囲が広がっていくと思います。

●**町田** そうですね。音楽は瞬間的に消えるので、保存することができません。CDで聴くことができるとはいえ、演奏会で聞くのとは違います。人間の感性に訴えて、人間の心を動かすことに音楽は非常に大きな力を持っていると思います。

●**飯森** 以前、ある方から頂いた手紙のことを思い出します。その方は長い間うつ病で苦しんで、ささいなことで自殺してしまいそうな状況でした。ある日、演奏を聞いて大変感動し、手紙をくれたのです。その手紙には「こんなに素晴らしい音楽は死んだら聞けませんね。『死んでしまいたい』と考えることがばかしくなりました」とありました。うれしかったと同時に、大きな責任を感じました。それから演奏会は「一期一会」と思っています。

山形は音楽に恵まれた環境

●**町田** 飯森さんは、日本各地でオーケストラを指揮していますが、同じ日本でも、地域ごとにタイプが異なるのではないのでしょうか。たとえば、東北では思案

的な曲目が好まれ、南の九州には情熱的な曲目が多いと思いますが、音楽の聴き手にも地域性があるような気がします。

●**飯森** 私が大学卒業後に留学先として選んだのはドイツでした。その理由は、指揮をする曲が圧倒的にドイツで誕生した作品が多かったためです。ドイツで生活し学ぶことで、ドイツ人とはどのような人種なのか、どのような気候で作曲家は育ったのかなどを学ぶことができました。

●**町田** 私は十数年庄内で過ごし、その間、庄内と山形を頻繁に行き来していましたが、移動の車中、月山の景色を眺めながらよくCDを聴いてました。クラシック音楽には、季節ごとの自然の美しさにそれぞれ合う曲があるように感じます。たとえば月山の紅葉の季節にはブラームスの「交響曲第3番第3楽章」がピッタリではないか

と思います。山形に暮らす人は、このように素晴らしい自然の中で、素晴らしい指揮者の奏でる音楽に触れることができ、本当に恵まれた環境にあるとあらためて思います。

●**飯森** おかげさまで、山響の演奏会の来場者は年々増えてきました。これはもしかしたら、山形には音楽と調和する何らかの関連性があるのかもしれませんが。たとえばブラームス、ブルックナー、マーラー、モーツァルト、ベートーヴェンなどの作曲家が誕生した地域と、山形の環境はどこか似ているような気がします。ですから、この地域で生まれた曲を、山形の方が聞くことにあまり違和感がないのかもしれませんが。

●**町田** いま日本の地方は、大変疲弊しています。だからこそ、これからの地方に「あがすけ」を克服できるような「自信」を与えてもらうことが大切です。「自信」を持てば、それぞれの地域の多様な文化を誇れるようになり、それらはGDPでは測ることができなくても、存在感ある21世紀の日本を支えることになります。

●**飯森** いま「地方分権」といわれますが、地方はそれぞれの文化が分権され、その魅力が発信されて、はじめて経済の分権ができると思います。

山形の方がまわりの顔色をうかがいながら、遠慮がちに取り組んでいるのはもどかしい。もっと山形の素晴らしさをアピールすべきです。私は山形が大好き。オーケストラが好き。これからも山形の良さをアピールしたいと思っています。

●**町田** 飯森さんの山響でのご活躍は、山形に「自信」を与えてくださる取り組みと、大変感謝しています。本日はありがとうございました。

協力：ホテルメトロポリタン山形 最上亭